

第1回WGでの意見の取りまとめ及び これからのデータ利活用WGについて



第1回ワーキングでの議論

国や自治体のオープンデータが探しづらい

APIがベストだがハードルが高い

行政のデータの一番のユーザーが行政の方々となり、一番メリットを得るようになるべき

使われることへの拒否感がオープンデータが進まない理由の一つ

コミュニケーション不足。行政は親切でPDFで公開しているのかもしれない

道庁のデータをきちんと整理し、棚卸し、リスト化することが大事

民間もオープンデータの仕組みに乗って、データを公開することで、新しいサービスが生まれる場を作る

民間と自治体のデータ利活用の課題

データ公開

民間

データ公開して得られるメリットが不明

パーソナル情報と個人情報の明確な線引きが不明

データの囲い込み

ここが
もうすこし理解できれば・・・

自治体

データ公開するための手間が大きい

データの保存場所が無い

データに関する知識不足

間違い等を指摘されることへの拒否感

秘匿主義・公開したくない風潮

ニーズが不明

法的位置づけ（義務）の認識不足

データ活用

必要なデータがどこにあるかわからない

活用事例が無い

機械判読可能なデータが少ない

データフォーマットがバラバラ

データの使い方がわからない

データ活用人材の不足

第2回WGで議論したいこと

- 第1回WGにおいては、行政のオープンデータの話が主になったので、第2回では民間のデータ利活用を進めるための方策について議論したい。
- データ利活用ワーキンググループの目標について決めたいと考えている。第1回WGの議論も含め、今年度、来年度の単年度目標と長期の目標を検討いただきたい。
- 来年度に向けて道が行うデータ利活用に関する事業の提案を行いたい。内容について検討いただきたい。

データ利活用するために民間と自治体に取り組むべきこと

データ利活用するために民間に取り組むべきこと

各メンバーに事前に考えてもらう

データ利活用するために地方自治体（道や市町村）に取り組むべきこと

各メンバーに事前に考えてもらう

データ利活用ワーキンググループの目標

<p>令和3年度 の目標</p>	<p>各メンバーに事前に考えてもらう</p>
<p>令和4年度 の目標</p>	<p>各メンバーに事前に考えてもらう</p>
<p>長期目標</p>	<p>各メンバーに事前に考えてもらう</p>

データ利活用ワーキンググループの目標（事務局案）

令和3年度 の目標

- 行政や民間におけるデータ利活用の推進方法の検討
- 道におけるデータ利活用を行うための令和4年度の事業立案
 - ・ 行政データの棚卸し調査及び民間ニーズの調査
 - ・ データ利活用アカデミーの開催
 - ・ オープンデータハッカソンの開催
- 北海道Society5.0推進計画におけるデータ利活用について

令和4年度 の目標

- 道の令和4年度事業の実行
 - ・ 調査対象データの選定
 - ・ 民間ニーズ調査への助言
 - ・ 調査結果の総括
- 民間がデータ利活用を行うために

長期目標

- 行政から機械判読可能なデータを手間無く公開できる方策を提案
- 民間もオープンデータの仕組みに乗り、メリットを受けながらデータ公開できる仕組みの構築
- 道内の全市町村がオープンデータに取り組む
- 北海道を日本のデータ利活用先進地にする